事業紹介・事業報告

「第８回ＪＩＣＥ研究開発助成成果報告会」の開催について

栢森俊之
研究第二部
主任研究員

1. はじめに

JICE では、各分野における先進的技術の研究開発を促し、住宅・社会資本整備を通じてより良い国土の利用・整備又は保全に寄与することを目的として、研究開発を支援する助成制度を平成 11 年度より実施しております。また、研究成果を社会へ還元する方策の一つとして、研究開発助成成果報告会を開催しており、今年度で第 8 回目を迎えました。第 8 回研究開発助成成果報告会は、平成 20 年 10 月 28 日に国際文化会館において開催し、橋本学先生（京都大学防災研究所教授）による記念講演『宇宙から見る大地の変動－陸域観測衛星「だいち」による地震・火山噴火予測研究の進展－』および平成 18 年度助成研究者による成果報告（11 研究）を行いました。

橋本学先生による記念講演

2. 第 8 回助成研究の成果報告

今回成果報告を行ったのは、平成 18 年度に公募した以下の 11 件です。これらの研究の成果概要については JICE ホームページの研究開発助成事業で掲載しておりますので、あわせてご覧いただけると幸いです。

①ラッシングベルトを用いたせん断損傷 RC 柱の応急補強技術　琉球大学　山川　哲雄

②振動計測による社会基盤構造物の保全・危機管理システムに関する研究　長岡技術科学大学　宮下　剛

③干潟におけるカキ礁機能評価システムの開発　横浜国立大学　佐々木　淳

④社会資本整備におけるステークホルダー分析実施支援システムの開発　東京大学　城山　英明

⑤都市間交通基盤施設の分権的整備・維持管理の可能性　鳥取大学　福山　敬

⑥最適な水環境保全事業の展開に向けた水質影響評価システムの構築 ～天橋立・阿蘇海流域を対象として～　京都大学　清水　芳久

⑦豪雨対策・雨水利用のための 36 時間降雨量ピンポイント予測システムの開発　岐阜大学　安田　孝志

⑧土木・建築構造制御に適した磁気粘性流体の開発および地震応答制御　神戸大学　藤谷　秀雄

⑨歴史的構造物の表層部強度分布の実測および強化に関する研究開発　三重大学　畑中　重光

⑩オーディトリーマップ（音声地図）と遠隔地での映像共有による視覚障害者のための歩行支援システムに関する実証的研究　富山県立大学　松本　三千人

⑪日常点検車を使った道路高速モニタリングシステム（VIMS）の完成に向けての実装化研究　東京大学　藤野　陽三

第 8 回 JICE 研究開発助成成果報告会の様子

3．過去の助成研究その後の展開についての紹介

過去の助成研究については、成果報告会後の研究の展開や社会への適応に関してフォローアップ調査を実施している。今回初めての試みとして、過去の助成研究の助成後の展開について、以下の 3 研究の事例をパネル展示で紹介しました。

①サステイナビリティをコンセプトとした建物および地域の水・廃棄物マネージメントシステムに関する研究（平成 13 年度助成研究）　北海道大学　船水尚行

内容：「混ぜない（排水分離）」、「集めない（分散型）」を前提とした、持続可能性の高い新しい排水処理システムの開発を目的としている。JICE 助成後は、「持続可能なサニテーションシステムの開発と水循環系への導入に関する研究」として、平成 14 年度に科学技術振興機構（JST）の助成に採択された。現在、国内・海外（インドネシア、中国）で実証実験を進めている。

②CFRP 補修構造物の損傷モニタリングによる健全度診断（平成 15 年度助成研究）　東北大学　福永久雄

内容：炭素繊維強化プラスティック（CFRP）補修構造物について、損傷を自動的にモニターする健全度診断技術を開発することを目的としている。
JICE 助成後は、平成 17 年度に財団法人先端建設技術センターから、また平成 19 年度から文部科学省科学研究費補助金を受け、「航空機 CFRP 構造の損傷モニタリング」に展開し、研究を進めている。

③コンニャク石を模倣した可撓性セラミックス構造材料の開発（平成 15 年度助成研究）
名古屋工業大学　太田敏孝

内容：セラミックス材料にコンニャク石と同様な可撓性を付与し、のこぎりでも切れるマシナブル性、熱伝導率の低下による、触っても冷たくない断熱性を持つセラミック材料の開発を行うことを目的としている。JICE 助成後は、平成 16 年度に文部科学省科学研究費補助金を受け、平成 18 年度からフランスの研究者と可撓性とともに耐熱衝撃抵抗について共同研究中である。

過去の助成研究のその後の展開をパネルで紹介

5．おわりに

JICE 研究開発助成成果報告会は今年で 8 回目を迎え、これまでも記念講演の選定や報告会の構成など、より参加者に興味を持っていただける内容とするべく努力をしてまいりました。今後もより一層の努力を重ねるとともに、この成果報告会を契機に様々な交流や新しい研究が広がるよう、JICE としての役割を果たしていきたいと考えております。

なお、橋本学先生による記念講演については、本号にて特集として紹介しておりますので、あわせてご覧ください。